

福井学の考え方

本市には、古来より引き継がれてきた歴史・文化や固有の自然など、全国に誇れる宝・地域資源が豊富にあります。また、昭和20年7月の大空襲、昭和23年6月の福井大震災と再度にわたって市全域が壊滅するという致命的な打撃を受け、さらに水害、風害と幾多の災害に見舞われましたが、市民の不屈の復興への意欲により、これらを乗り越え、今の「不死鳥のまち福井」を築き上げたという自信と誇りがあります。また、「住みよさランキング」における社会経済指数16項目の総合評価は、常に全国トップクラスであり、住環境の良さには高い評価があります。

しかしながら、こうした本市の素晴らしさが市民の意識に結びついていないと言いがたく、また宣伝が上手ではないという市民の気質からか、知名度が低く、全国にも本当の「福井市」が認識されていないのが現状です。こうした状況を変え、本市をさらに心豊かな地域社会として創造していくためには、市民一人一人が地域に誇りと愛着を持つことができるかどうか重要なポイントとなります。

そこで、福井人として、誇りと愛着を持てるよう「地域学」を導入し、福井市の事象に関する学習を通じて、市民一人一人が自らの手で「福井らしさを再発見」し、自信を持って「福井市」を積極的に全国に発信できる状況の確立を目指す必要があります。

現在、本市では、市内49地区のまちづくり事業をはじめ、自主研究グループなどの活動や各公民館、各公共施設などで行われている様々な取り組みの中で、「福井学」の土壌と言えるものはそれなりにでき上がっているとも思われますが、今回、より一層多くの市民が幅広く取り組めるように、「福井学」としての目的、意義などを明確に位置付けし、体系的に取り組んでいきたいと考えます。

福井学とは

私たちのまち「福井市」の歴史・自然・文化・産業・景観・生活などの事象を楽しく学ぶことにより、郷土の個性や魅力を見つめ直し、愛着心を育む中で、私たち一人一人が誇りと自信を持って生活していこうとする取り組みを「福井学」としたいと考えます。

そして、福井市民一人一人が、「とっておきの」本市の事象について、必ず一つは自信を持って、自分の言葉で語るようになることをイメージして「一人一ひとりいちイッチョライ」を提唱するものです。

*「イッチョライとは、福井の方言で“一張羅”（とっておき、一番上等）という意味です。

基本的な取り組み

「福井学」推進に向けての姿勢として、「学びのステージ」と「はばたきのステージ」の2つのステージを基本に取り組みます。

平成19年度からの「学びのステージ」では、郷土を学び、福井らしさを再発見、再確認し、市民一人一人が郷土観を確立するために、AOSSA(アオッサ)5階「福井市地域交流プラザ」の中央公民館を拠点に、地区公民館、小・中学校を軸として、さまざまな場所で取り組みました。学習テーマは、歴史・自然・文化・産業・景観・生活の分野から、幅広い事象について捉え、子どもから高齢者まで幅広い人たちを対象として取り組みました。

一方、平成22年度からの「はばたきのステージ」では、「学びのステージ」で学習・研究した成果を地域づくりに活用し課題の解決に役立て、新たな認識のもと郷土を見つめ直し、最終目標である「市民が主体となった心豊かな地域社会の創造」につなげ、福井の郷土の誇りなどを次世代に継承していきます。

平成19年度からは

- ①福井市について総合的に学ぶ事業を実施しました。
- ②地域での取り組みとして、各地区単位で「ふるさとの達人」による「地域ふくい塾」「地域子ども塾」を開催しました。
- ③学習・研究を深めるための「福井学」の自主学習グループの創設及び活動の支援を行いました。
- ④「子ども福井学」を市域の小中学校の児童・生徒に推進しました。
- ⑤学習成果の発表及び発信をしました。

平成22年度からは

- ①市民自らが主催する相互学習、相互活動事業の支援をします。
- ②更なる学習・研究を深めるための自主学習グループの創設及び活動の支援をします。
- ③学んだ成果を日々の暮らし、まちづくりに反映していくための事業の支援を目指します。
- ④福井市について全国発信できる事業の実施を目指します。

学びのステージ

主な事業実施内容

中央公民館 「福井学」推進事業のメイン事業として基礎講座を開催

基礎講座は、「福井学」推進事業のメイン事業で、毎年10回程度の講座を行います。これは、福井市のあらゆる事象を「歴史・自然・文化・産業・景観・生活」などの6分野に整理して、市民全体を対象として、子どもから高齢者まで幅広い人たちに学習機会を提供するものです。

この基礎講座は、魅力ある講座とするため、参加した講座生がより深くふるさとを再考できるよう、互いに“福井を語り合う”ことができる「ワークショップ」などを取り入れて行います。

地区公民館 “ふるさとの達人”による「地域ふくい塾」「地域子ども塾」を開催

「地域ふくい塾」「地域子ども塾」は、各地区を対象に、郷土を知り、地区の“いいところ”を再認識し、誇りを持っていただくために地区公民館などで開催するものです。地区公民館では、教育事業の1つとして、「歴史・自然・文化・産業・景観・生活」などの分野から“ふるさとの達人”を発掘し、この“ふるさとの達人”による「地域ふくい塾」「地域子ども塾」を開催します。

市では、各地区から発掘された“ふるさとの達人”から、約100人を福井市の事象のイメージアップ推進役として委嘱し、公民館、学校などで“達人ぶり”を発揮してもらうことにしています。

団体などの自主研究活動 団体などの自主研究への奨励

地域の文化・伝統などの諸事象の研究を進めている地域の団体や公民館の自主グループなどを対象に、研究活動を奨励します。これは、「福井学」を市民に啓発することや、この研究活動の成果を地域づくりにつなげていくことをねらいとしています。また、自主研究している地域の団体などのネットワーク化を図ることで、より一層地域を知り、誇りをはぐくみ、地域の魅力を発信につなげていくものです。

小・中学校の研究活動 小中学校の研究への奨励

「福井学」を幅広い市民の参加を得て進めていくため、市内の小中学校の児童・生徒を対象に「子ども福井学」を奨励し、支援を進めていきます。

現在、それぞれの学校で、「総合的な学習の時間」などで取り組んでいる郷土の個性や魅力などの調査研究は「子ども福井学」そのものであります。こうした取り組みを支援し、市全体で活動内容を交流し、広くアピールすることで、福井市についての学習がさらに深まり、広がることを目指していきます。

学習成果の発表会 学習成果の発表会をイベントとして実施

公民館、学校や自主研究の団体などの学習・研究成果の発表会を開催します。これは、1年を節目として、その学習・研究成果の発表会を催し、「福井学」の市民への周知と新たな認識をはぐくみ、市民主体の「福井学」へつなげ、最終目標である誇りと愛着にあふれた「市民が主体となった心豊かな地域社会の創造」に結び付けていくものです。

はばたきのステージ

中央公民館（福井学学習センター）

実践

地域づくりに活用

- ・ 「福井学」推進事業の市民主体への移行を主眼に、提案・参加を一層奨励します。
- ・ 学習成果などを地区公民館単位などで、まちづくりに反映できるよう働きかけます。
- ・ 学習・研究を深めるため、自主研究グループの創設や活動の支援を行います。



ネット ワーク化

自主研究グループなどのネットワーク化

- ・ インターネットを柱に自主研究グループなどの情報ネットワーク化を奨励します。
- ・ 全国的な場を視野に取り組みなどを発信します。



継承

郷土の誇りを次世代に継承

- ・ 広く市民に「福井学」推進事業の取り組みの周知を図り、郷土の誇りを次世代に継承します。

地区公民館

実践

地域づくりに活用

- ・ 学習成果などを地区公民館単位などで、まちづくりに反映できるよう働きかけます。
- ・ 学習・研究を深めるため、自主研究グループの創設や活動の支援を行います。



継承

郷土の誇りを次世代に継承

- ・ 地区民に「福井学」推進事業を通して、郷土の誇りを次世代に継承します。

小中学校

実践

地域づくりに活用

- ・ 学習成果を学校単位で、ボランティアなどとして、まちづくりに参加できるよう働きかけます。



継承

郷土の誇りを継承

- ・ 「子ども福井学」の調査・研究活動を通して、郷土の誇りを継承します。